

## 2019年 年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。自然災害が頻発した激動の1年を終え、新たな年を迎えます。本年が皆さんにとって、素晴らしい年になることを祈念して、年頭のご挨拶をさせていただきます。

日本中で、少子高齢化、人口減少が急速に進んでいます。特に大和高田市の人口減少は顕著で、他の地域より早く、2000年をピークに人口が減少に転じ、減少速度も加速しています。このような状況において、中和医療圏の基幹病院として、何かできることはないかと模索してきました。2019年の年頭において、大和高田市立病院は、住民の皆さんが安心して暮らせ、子育てができるように、安心・安全の医療の提供、すなわち救急医療や周産期および小児医療の充実を提案させていただきます。

救急医療については、2018年4月から、地域の基幹病院として、葛城地区の他の5病院と協力し、葛城地区二次救急輪番を立上げ、病病連携の組織作りを進めてきました。さらに同年10月からは、大和高田市、香芝市、葛城市、広陵町の3市1町の行政が取りまとめを行い、正式に救急輪番が稼働しました。救急隊や奈良医科大学の協力も得て、可能な限り「断らない救急」および「中和医療圏での完結」をめざしています。またこの6病院による病病連携が中心となって、診療所や在宅、介護施設との連携を行えないかと協議しています。

続いて周産期および小児医療についてですが、当院は、開院以来、周産期および小児医療に注力してきましたが、本年4月より、さらに産科と小児科の医師の充足を図り、両診療科間の連携を深めることによって、より水準の高い周産期および小児医療をめざす「周産期・小児医療推進プロジェクト」を立ち上げます。住民の皆さんが、安心して、お産や子育てのできる町づくりに、協力できることを切に願っています。

当院は、住民の皆さんに愛され、必要とされることで、歴史を刻んできました。今後もスタッフ一同、中和医療圏の基幹の自治体病院の自覚を持って、安心・安全の医療を提供することをめざし頑張りますので、この一年もご支援ご協力をお願いします。

院長 岡村 隆仁